

書評

生命起源の事典

生命の起原および進化学会(監修)/藪田 ひかる・川村 邦男・赤沼 哲史・
木賀 大介・根本 直人・古川 善博・横堀 伸一(編)
朝倉書店 2024年5月刊行 全312頁
ISBN: 978-4-254-16078-9

成田 憲保¹



25年ほど前、私が東京大学理科一類に入学した時、私には大学で研究してみたいテーマが3つあった。それは宇宙の研究、生命の起源の研究、人工知能の研究である。このようにいくつかやりたいテーマがあって高校生の時には決められなかったのが、入学時に学科まで決めなくて良く、進学する学科を2年生の時に選択できる制度(通称、進振り)があるというのが東大を志望した理由でもあった。結局宇宙に関わる研究が一番やりたいと思い、進振りの際には物理学科を選択し、4年生からは太陽系外惑星の研究を始めて、現在へと至っている。このように私自身の進路は生命の起源の研究からは離れてしまったものの、地球上の生命がどのようにして誕生したのか、宇宙には地球以外にも生命が存在するのかといった生命の起源に関する研究にはずっと興味を持っていた。そして私が取り組んでいる太陽系外惑星の研究も、将来的には生命の起源に関する研究との接点が多くなると期待されている。もともとやりたかった宇宙の研究と生命の起源の研究が長い時を経てつながってきたことは感慨深い。

前置きが長くなってしまったが、本書「生命起源の事典」は生命の起原および進化学会の監修のもと、編集委員長の藪田ひかる先生(広島大学)をはじめとする101名もの先生方によって執筆された書籍である。本書は以下の5章から構成されている。

- 1章: 基礎知識・用語説明
- 2章: 生き物の仕組みと変遷
- 3章: 宇宙での化学進化
- 4章: 地球での化学進化
- 5章: 物質から情報・システムへ

各章は30個前後のトピックからなり、それぞれが1ページあるいは2ページで完結している。天文学・地球惑星科学・生命科学など様々な分野のトピックが網羅されていて、各トピックが読み物として非常に面白い。各章の中ではトピックが系統だって並べられており、各研究分野で蓄積されてきた最新の知見が生命の起源という観点で一冊の事典として見事にまとめられている。トピックごとに完結しているため、各トピックは比較的短時間で読むことができ、少しずつ読み進めていくのに適している。最初から順序よく系統だって読み進めていっても良いし、目次を見て興味のあるトピックからつまみ食いするように読んでいっても良いだろう。ちなみに私は後者だった。本書のレベルは大学生や大学院生、あるいは別分野の研究者が主なターゲットとして想定されていると思うが、生命の起源という研究にいろいろな分野からアプローチできることを早くから知ってもらいたいという観点では高校生にもぜひ存在を知ってもらいたい書籍である。

1. 東京大学大学院総合文化研究科
narita@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

した非常に完成度の高い一冊であるが、最先端の知見をまとめた書籍であることの宿命として、(研究の半ばにあるため)まだわかっていないという記述も散見される。しかし、これから数年、数十年のうちにさらに研究が進んでいけば、新たな知見がどんどん明らかになってくると思われる。そのため、事典の内容が古過ぎる記述にならないよう、今後も定期的に内容の改訂がなされることを期待したい。そして、そうした将来の改訂の際には、今まさに関連分野で研究している若手研究者や将来関連分野を担う研究者となる学生が新たな1ページを書き足してくれることを期待したい。

最後に、高校生の時に人工知能の研究にも興味を持っていたものの、この書評にはChatGPTなどの人工知能の力は借りていないことを付記しておく。